

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3590104091		
法人名	社会福祉法人 菊水会		
事業所名	地域密着型グループホーム にじの丘		
所在地	山口県下関市菊川町大字田部223-9		
自己評価作成日	平成27年1月13日	評価結果市町受理日	平成27年10月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年2月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホームにじの丘は緑に囲まれた小高い丘の上にあります。近くに小学校があり、施設の前の通りは通学路になっていて、施設周辺を散歩すると子供達の元気な声が聞こえてくる事もあります。また、子供達との交流もあります。施設は特養と併設しており、お茶会や、にじの丘まつり等大きな行事は特養と合同で行っています。併設の訪問看護ステーションは、医療連携として看護師が週3回訪問し、入居者様の健康管理を行っています。食事は3食手作りで、中庭の畑で取れる季節の野菜を使用し、入居者様と一緒に調理や盛り付けをしています。毎月の甘酒作りや、年1回の味噌作りは、手作りの美味しさを味わい、昔を懐かしんで頂いています。2ヶ月に1回家族会を開き入居者様、ご家族、職員で会食しています。鍋を囲んでの忘年会は年末の恒例行事となっています。昨年10月に家族日帰り旅行を実施し、全員参加でとても良い1日でした。入居者様には日々散歩や外出を通じて季節を感じて頂けるように支援し、ご家族との関係も家族会行事や、日々の関わりを通してこれからも大切にしていきたいです。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者と職員と一緒に散歩や買い物に出かけられて地域の人達と挨拶を交わしておられる他、地域の夏まつりや敬老会に参加されて交流しておられます。職員は道の駅の屋外トイレの壁画描きのボランティアに参加され地域の人と交流されています。子ども110番の看板を設置して子ども達の見守りの協力もされています。小学生の絵や習字を事業所内に展示され「地域展覧会」を開催され、地域の人や子ども達が見学のために来訪されるなど、地域とのつながりを深められています。職員の希望や段階に応じた外部研修への参加や法人研修、内部研修の実施の他、週2回、急急手当や初期対応の訓練を実施されているなど、職員を育てる取り組みをしておられます。家族会を年6回開催され、日帰り旅行に出かけられたり、年末の大掃除と一緒にされているなど、事業所と家族が共に本人を支えていく関係づくりに取り組まれています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
58 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員は、生き生きと働けている	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念をもとに作成した、グループホーム独自の目標を掲示し、生活日誌に印字することで共有と実践できるように、毎日朝礼で復唱し確認して支援している。	法人の基本理念にそった事業所の介護目標をつくり、事業所内に掲示し、朝礼で唱和している。月1回のスタッフ会議で話し合って月ごとの目標を決め、職員全員で共有して理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の祇園祭、市町の敬老会等、地域の行事に参加している。また、ボランティア(ハーモニカ演奏、カラオケ教室)や、地域の中学校、小学校や幼稚園の訪問があり交流がある。	自治会に加入し、事業所は「子ども110番」の旗を設置して子ども達の見守りに協力している。利用者は、地域の夏祭りや敬老会に参加したり、日常的な散歩や買い物などで地域の馴染みの人と交流している。職員は、法人が提案した道の駅の屋外トイレの壁画描きにボランティアとして参加している。法人主催の「地域で学びま専科」を年6回行い、利用者や職員、地域の人達と一緒にちぎり絵や太極拳の体験教室に参加している。地域のボランティア(大正琴、ピアノコンサート、ハーモニカ演奏、エイサーなど)の来訪がある他、年1回の保育園児の来訪や小学校の年3回の体験学習の受け入れ、中学生の職場体験の受け入れをしている。小学生の絵や習字を事業所の廊下に展示して「地域展覧会」を開催し、地域の人や子ども達が見学のために来訪し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度、法人主催の「地域で学びま専科」という勉強会を通して、地域の方と一緒に学ぶ機会をもっている。認知症についても勉強し、職員も参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価用紙を職員1人1人に配布しそれをまとめている。自己評価を行う意味や、外部評価について係長が説明し、きちんと読み理解することで、意義や目的、日々のケアで出来ていること出来ていないことを考えることができた。また、外部評価の結果によりケアの見直しを行い、具体的により良いサービスを目指すように努めている。	内部研修で評価の意義や項目について説明し、自己評価をするための書類を配布し、全職員に記入してもらい、繰り返し話し合い、管理者がまとめている。職員は項目の理解を深め、ケアの振り返りと捉えている。前回の評価結果を受けて、応急手当や初期対応の訓練の充実に努めるなど、改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、入居者様の様子やサービスへの取り組みの状況について報告している。また外部評価結果や目標達成計画の取り組みについても報告し、意見をもらいサービスの向上に活かすようにしている。	年6回開催し、利用者の状況報告、ヒヤリハット・事故報告、行事報告、外部評価の結果報告、避難訓練と防災マニュアル、家族アンケートの結果報告などをして、話し合っている。災害発生時には施設状況の把握が必要という意見があり、メンバーである消防署員と消防団員が施設内見学をして、次の避難訓練につなげるなど、サービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では、市町担当者に推進委員として出席していただき、実情や入居者様へのケアの取り組みの内容を伝えている。また、緊急時の連携や協力をお願いしている。地域の行事等のご案内もその都度していただいている。敬老会では、参加会場での席の配慮をしていただいている。	市の担当課とは、運営推進会議時や出向いで相談したり、電話やFAXで情報交換をしている他、市の依頼を受けて外国人の事業所見学を受け入れるなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センターとは、月1回の地域ケア会議において相談や情報交換をして連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム勉強会、スタッフ会議、セーフティケア会議や、事業所内の勉強会で取り上げ話し合っている。玄関の施錠を含め身体拘束や、言葉による拘束がもたらす入居者様への影響を話し合い、身体拘束をしないケアの取り組みに活かしている。	年1回、法人のグローアップ勉強会で身体拘束に関する研修を受講している他、朝礼時や月1回のスタッフ会議でも事例検討をして職員は理解している。玄関に施錠はせず、外出したい利用者と職員は一緒に出かけている。スピーチロックについては管理者が指導している。職員間でも注意し合っている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内のグローアツプ勉強会に参加し、学ぶ機会を持っている。理解を深めることで虐待防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在、成年後見制度を利用されている方はおられないが、今後ニーズに対応出来る様に学ぶ機会を持ち、必要な事を関係者と話し合い支援していきたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に計画作成担当者が、家族に契約書、重要事項説明書について十分な説明を行い同意をとっている。退居時のことについても契約時に説明し、負担費用で変更があった場合も説明、同意をご家族に行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回ご家族に満足度調査アンケートを実施し対応やサービスについて意見をいただき、回答については施設内に掲示している。また、苦情受付窓口の設置や、玄関にご意見箱を置き、意見や要望があればいつでも書いていただけるようにしている。その内容も各部署に回覧をし周知するとともに、利用者、家族のご意見は、法人運営会議にて検討し運営に活かしている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、第三者委員を明示して、契約時に家族に説明している。運営推進会議や面会時、年6回の家族会、年2回の満足度調査アンケート、電話等で家族からの意見や要望などを聞いている。食事の献立表を希望する要望があり、家族に送付している他、事業所内に掲示しているなど、反映させている。意見箱を設置している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や、個人面談により意見を聴くようにしている。その意見を法人運営会議で検討し、反映することができる。	月1回のスタッフ会議や年2回の個人面談で、職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中でも聞いている。個人情報やふまえた生活記録表の改善や不穏になる利用者の対応に応じての勤務体制の変更など、意見や提案を反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を活用しており、職員一人ひとりが目標を設定している。期末には上司との面談があり、日頃の勤務状況、職員個々の努力、実績などを評価し、向上心を持って働けるよう、賞与等に反映するようにしている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	その時々で必要な法人内での研修や、外部の研修を受ける機会をもち、情報交換や参考になったことは取り入れている。全職員会議で外部研修の報告をし、研修内容は回覧により、周知するようになっている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は月1回の法人の全職員会議時に復命し、資料は回覧している。月1回の法人のグローアップ研修(身体拘束、接遇、リスクマネジメント、認知症、緊急時の対応等)に参加し、資料は回覧している。内部研修は、年6回テーマ(接遇や看取り、レクレーション、外部評価など)を決めて実施している他、週2回、応急手当や初期対応の訓練をしている。山口県宅老所・グループホーム連絡会や地域のブロック研修会、地域ケア会議の研修会に参加している。新人職員は法人での研修を受講後、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所、グループホーム連絡会や地域ブロック研修会に参加し、学習会や、情報交換、施設見学等交流の機会を持つ事により、サービスの質の向上につなげていくように努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々、入居者様とよく話をする事で、信頼関係を築き、安心して生活していただけるように努めている。入居者様の不安や要望は日頃より寄り添い傾聴するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームでの生活がスムーズにいくように、入居前からご家族とよく話し合い、また、家族会や面会に来られた時にお話し、協力していただけるような関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々で、入居者様やご家族の必要とされている事を聴き、今どのようなケアが必要かを見極めながら、他のサービスも含めた対応が出来る様に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者様と日常生活を一緒に過ごす中で、教えて頂くこともあり、お互いに協力しながら和やかに生活することができるよう努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時は、ご家族でゆっくりくつろいでいただけるようにしている。職員は、日頃の様子や気づき等をお伝えし、ご家族からは、これまでの生活や昔の話等を聞き、入居者様を共に支えていくという関係づくりに努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	受診や外出の帰りに、以前住んでおられた場所を通ったり、馴染みの場所に買い物に出かけている。また、併設の施設に奥様がいらっしゃる方や、知人がおられる方は時々会いに行かれている。	親戚の人や知人、近所の人々の来訪がある他、馴染みの美容院の利用、自宅周辺のドライブ、馴染みのスーパーでの買い物、家族の協力を得ての外出や買い物、外出、墓参り、法事や葬儀への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を職員が把握し、レクリエーションをしたり、コミュニケーションが図れる様に支援している。心身の状態や気分の変化にも注意しながら、時には職員が間に入り、見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方でも、今後のサービスの確保が出来る様に情報提供や相談があればいつでも対応できるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様やご家族とよく話をし、一人ひとりの思いをしっかりと受け止め、その人らしい暮らし方が実現できるように努めている。困難な場合でも、出来るだけその人らしい暮らしになるよう入居者本位のケアを検討している。	入居時に「入居者の情報提供書」に記録して共有している他、日常の関わりの中で利用者に寄り添い、気づいた事や言葉などを生活記録や個人記録に記録して、センター方式のシートにまとめ、職員間で共有して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報提供書や、面会又は、家族会の面談の時に聞き取りをして、センター方式に記入しこれまでの生活の様子を把握するように努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録表や健康チェック表を参考にしながら入居者様一人ひとりの生活のリズムを把握し、また、言葉や行動から心身の状態を感じることが出来るようにしている。今できる事を大切にしながら支援するように努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、ご家族の希望を聴き、入居者様がより良く暮らしていける様に課題とケアを、カンファレンスにて話し合い、それぞれの立場からの意見や考えを反映し、現状にあった介護計画に活かしている。	計画作成担当者と利用者を担当する職員を中心に月1回カンファレンスを開催し、本人の思いや家族の要望を聞き、医師や看護師など、関係者の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。1ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎の見直しをしている他、要望や状態の変化に応じて現状に即した新しい介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき、工夫があれば、個別に毎日記録して職員間での情報共有やケアの実践、介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様や家族の思いを大切に、その時々に応じてその人に合わせた支援を柔軟に行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	協力医療機関は、内科、消化器内科、循環器内科、歯科があり、必要に応じて受診するようにしている。ボランティアの受け入れや、小学生や、幼稚園の子供達との交流は入居者様の生活の中の楽しみの一つとなっている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関以外、入居者様のかかりつけ医の受診については、ご家族の協力の下受診している。受診前には状況を家族に伝え、受診後は様子をお聴きすることで、連携や情報共有を図っている。	協力医療機関をかかりつけ医としている場合は、週1回の訪問診療がある。それぞれのかかりつけ医や他科受診(眼科、整形外科、脳神経外科等)は、家族の協力を得て受診の支援をし、受診時には口頭で情報を伝えている。併設の訪問看護ステーションと業務委託しており24時間連絡可能で、週3回は健康管理のための訪問がある。訪問時には「ナース記録」に状態や変化を記録してもらい、受診時や訪問診療時に伝えている。受診結果は「私の療養ノート」に記録し、職員間で共有している。緊急時にはかかりつけ医と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に訪問看護師が週3日健康管理を行っている。気付いた事や、相談はその都度行ない、入居者様が安心して暮らしている様に、必要があれば看護師から協力医に報告し、指示をもらっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供書を作成し情態を報告している。入院中も病院関係者やご家族と連絡をとり、情報交換や相談を行っている。時には、面会にも行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について説明している。早い段階で、センター方式用紙をもとに、入居者様、ご家族と話し合いを行い希望もお聴きし、事業所で出来る事を説明するようにしている。主治医からご家族に看取り開始時には説明していただくようにしている。	看取りの指針に基づいて、事業所ができる対応について契約時に本人や家族に説明している。実際に重度化した場合には、早い段階から家族や主治医、訪問看護師等と話し合い、医療機関や他施設への移設を含めて方針を共有して、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	一人ひとりのリスク管理については、スタッフ会議で話し合っている。事故が発生した時は、毎月行われている事業所内のセーフティケア委員会で報告し、対策をたてて事故防止に努めている。急変や、事故発生時に備えて、緊急時の対応の訓練を週2回定期的に行っている。	事故発生時には、その場の職員で対策を話し合い、ヒヤリハット報告書や事故報告書に記録し、職員に回覧して共有している。月1回のセーフティケア会議で再度の検討をして、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。緊急時対応訓練をマニュアルに沿って週2回、気道異物の除去、心肺蘇生の手順、止血法などを実施している他、法人の「グローアップ勉強会」で職員は普通救命講習を受講しているなど、実践力を身につける取り組みをしている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力により法人内で避難訓練を行っている。地域との協力体制は運営推進会議で緊急時の連絡網を作成して、いつでも見ることが出来るようにしている。自治会、消防団にも緊急時に備えて施設内を見学していただく等協力を呼びかけている。	年2回、消防署と警備会社の協力を得て昼夜想定災害時避難通報訓練等を利用者も参加して実施している。運営推進会議のメンバーが緊急時の連絡網に加入している。運営推進会議で防災計画に基づいてシュミレーションや話し合いをしている他、緊急時に備えて自治会長や消防署員、消防団員が施設を見学して、対策について話し合いをするなど、地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた言葉かけをしている。法人内での勉強会(接遇について)に参加したりスタッフ会議、GH勉強会等で話し合っている。入居者様の誇りや人格を尊重し、プライバシーに配慮した対応や言葉かけを心掛けている。	法人研修や内部研修で学んでいる他、月1回のスタッフ会議で事例検討をして、職員は理解して一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応については職員間で注意合っている。個人情報管理し、守秘義務について遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の体操後の飲み物の希望をお聞きしたり、外出・散歩・レクリエーションの希望や、入浴の時間、居室や居間で過ごす等日常生活の中でその都度自己決定が出来る様に働きかけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースを大切にするように心掛けている。居室や居間でテレビを見たり、新聞を読む等希望に添って過ごしていただき、買い物や外出は体調や思いに配慮しなるべく希望に添うように対応している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動美容室があり、カットやパーマ等入居者様の希望に添って利用している。馴染みの美容院にも行けるよう支援している。洋服はご自分で着たいものを選んでおられる。難しい方は一緒に選んでいる。行事等で外出する時はお化粧品もして頂けるように準備している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑でとれた旬の野菜を利用し、季節を感じて頂けるように工夫し調理している。一人ひとりの好みを把握し、苦手なものがあれば別の物を準備している。食事作りや盛り付け、片付け等入居者様と一緒にいき、役割分担や楽しい雰囲気作りを大切にしている。	献立は管理栄養士が作成し、事業所の畑で収穫した野菜や家族からの差し入れの野菜などを使って三食とも事業所で調理している。利用者は、買い物、下ごしらえ、調理、盛り付け、台拭き、お茶入れ、下膳、食器洗いなど出来ることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じ食卓を囲み一緒に食事を楽しんでいる。誕生日には利用者の好みを取り入れて献立を変更することもある。季節の行事食やおやつづくり(フルーツ白玉、おはぎなど)、干し柿づくり、甘酒づくり、しそジュースづくり、手づくり弁当持参での花見、忘年会の鍋パーティ、年1回の外食などの他、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事の形態が把握できるように一覧表を作成している。入居者様に合った食事量や水分量が、摂取出来る様に心身の状態や、習慣に応じた対応をしている。1日の食事摂取量、水分摂取量は健康チェック表に記入し状態を把握している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行っている。入居者様に応じた見守りや、口腔ケアの一部介助を行い清潔保持に心がけている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの状態や排泄パターンに応じて排泄介助を行っている。生活記録表を活用し、時間ごとのトイレ誘導や声掛けにより紙パンツから布パンツへの変更や、パットの削減等トイレでの排泄にむけた支援をしている。	生活記録表を活用して、排泄パターンを把握し、言葉かけやプライバシーに配慮してトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、毎朝牛乳を飲んでいただいている。ヨーグルトやバナナも朝食にお出ししている。日常的に体操や散歩等、体を動かしていただいたり、腹部マッサージの声掛け等その人に応じた予防を働きかけている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午後1時半から6時までの間で、一人ひとりの希望の時間をお聞きしながらほぼ毎日入浴していただいている。冬至にはゆず湯をして季節を感じていただいている。入浴できない時は、清拭・足浴を行っている。	入浴は毎日13時30分から18時までの間可能で、一人ひとりの希望する時間にゆっくりと入浴を楽しめるよう支援している。入浴したくない人には曜日の変更や職員の交代、声かけの工夫をしながら個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活習慣やその時の状況に応じて、居室や居間にてゆっくり過ごしていただいている。就寝前には居室の見回りをし、安心して眠れるように照明や室温調節・乾燥防止等環境を整えている。眠れない時は、温かい飲み物を勧めたり話をしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイルを作成し、薬の説明書はすぐに見ることが出来るようにしている。また、症状の変化があれば訪問看護や協力医に報告し連携を図れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意な事や好きなことを聞いて、家事・畑仕事・生け花・歌・将棋・裁縫・塗り絵・ちぎり絵など、様々な場面を提供することで張り合いや、喜びのある日々を過ごすことが出来る様に支援している。	畑やプランターの草取り、水遣り、さつま芋などの収穫、洗濯物の取り込み、洗濯物たたみ、米砥ぎ、下ごしらえ、盛り付け、下膳、テレビ視聴、新聞や本を読む、生け花、将棋、裁縫、ぬり絵、ちぎり絵、食器洗い、カラオケ、輪投げ、お化粧品クラブ、ボランティア(ピアノコンサート、大正琴、茶道、エイサー、ダンスなど)、味噌づくり、甘酒づくり、干し柿づくり、しそジュースづくり、牛乳パックの小物入れ、しめ縄づくり、口腔体操、法人の祭り、保育園児や小学生との交流、季節の行事(敬老会、クリスマス会など)など、活躍できる場面づくりをして、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物等、日々の状況や希望に応じて化粧品やお菓子を買いてかけている。花見・菖蒲見学・みかん狩り等季節ごとの外出計画を立て戸外にもでかけている。日々の散歩も本人の希望を聞きながらおこなっている。	季節の花見(桜、菖蒲、コスモス)、みかん狩り、家族会行事(日帰り旅行)、歌謡ショー、法人グループホームに出向いての味噌づくり、法人主催の「地域で学びま専科」への参加、散歩、買い物、家族の協力を得ての夕食や買い物、外出、墓参り、法事への出席など、戸外に出かけられるように支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より定期的にお金をお預かりしているが、買い物で入居者様が希望される時は直接お金を渡している。また、ご自分で少しのお金の管理をされている入居者様もおられるので、職員はお金を持つことの大切さを理解し気を配っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様より希望があればいつでも電話を掛けられるようにし、また、手紙やはがきは書くことが出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間には、居心地良く過ごせるように入居者様に季節の花を生けてもらっている。居間には掲示板があり、カレンダーや行事がすぐわかるように掲示したり、季節の飾りつけ等工夫している。	リビングは天窓から入る陽ざしで明るく、広々としている。テレビの周辺にはたたみコーナーがある他、玄関や廊下にも椅子やテーブルが置いてあり、思い思いにくつろげる居場所となっている。季節の飾り物を置いて、壁には小学生の絵が飾ってある。ティールームの大きな窓からは利用者と一緒に栽培した野菜を見ることができ、季節を感じるができる。台所からは調理する音や匂いがして生活感を感じることができる。温度や湿度、換気、音などに配慮し、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席は、気の合う方同志座って頂く様に配慮している。居間やティールーム、廊下、玄関にも座ることが出来る様にソファや椅子を置き、ゆっくり話をしていただける等思い思いに過ごせるようなスペースを作っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた馴染みの物を持ってきていただき、入居者様が居心地良く過ごしていただけるようにしている。家具の配置は、入居者様やご家族と相談し安全かつ快適に過ごしていただけるように工夫している。	タンス、仏壇、椅子、テレビ、姫鏡台、整理棚、衣裳ケース、雑誌、ぬいぐるみ、時計などを持ち込み、家族の写真、ぬり絵の作品、生け花などを飾って居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の状態に合わせて手すりや居室、トイレ、廊下等安全確保に配慮している。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム にじの丘

作成日: 平成 27年 9月 9日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	緊急時応急手当や初期対応の訓練の更なる充実	職員一人ひとりの実践力の向上 1. 実践的な訓練の実施	1. 看護師による応急手当や初期対応を実践的に取り組む。(11月に勉強会を開催予定) 入居者様と一緒にを行う実践的な訓練を実施する。	1年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。